（一）　昭和30年1月3日〔月曜日〕　第13891号　常磐毎日新聞　（可認物便郵種三第日9月7年25和昭）　（夕刊）

常磐毎日

発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
電話1210番

謹賀新年

正賀

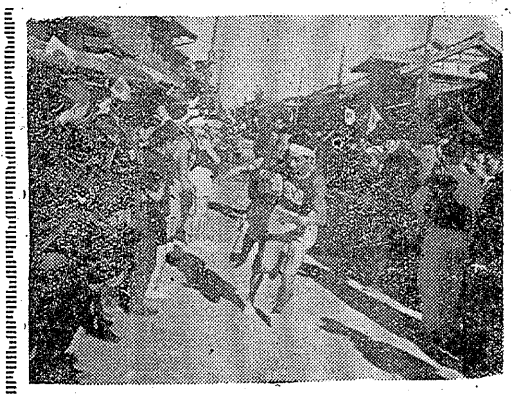
常磐毎日新聞社
社長　鈴木正男
外社員一同

迫る平・相馬驛傳

十九チーム二百余名が参加

新春スポーツ界の壁頭を飾る本社主催の第四回相馬―平間百六キロ駅伝競走は愈々来る三十一日（旧正月七日）午前八時半中村厳胡出発で挙行される、参加を予定されているチームは二般の部では常磐炭礦チームを始め、昨年常磐選抜チームを破りたオール双葉、それに常磐製鉄所、呉羽化学、日本水素、古河好間、国鉄、敷島組合チームの八チーム、高校の部では昨年優勝の相馬農高、それに地元からは磐城、平商、平工、小名浜水産、四倉高、小名浜商業、磐農高が顔を揃え、加えて相双地区からは小高農高双葉高、大野分校の十一チームが参加、何れも勝力全く伯仲、文字通り激斗のレースを展開するものとして早くも関心をおおっている

走破区間は▼第一区間相馬―鹿島（十三、二キロ）▼第二区間鹿島―原町（七、二キロ）▼第三区間原町―小高（十、九キロ）▼第四区間小高―浪江（十キロ）▼第五区間浪江―標葉（六キロ）▼第六区間標葉―大熊（八、五キロ）▼第七区間大熊―富岡（六、三キロ）▼第八区間富岡―双葉（七、四キロ）▼第九区間双葉―上野（九、二キロ）▼第十区間広野―久の浜（九、六キロ）▼第十一区間久の浜―四倉（四、九キロ）▼第十二区間四倉―平間（十二、八キロ）の十二区間百六キロ沿道に松並木を配し両にあふくまの連峰を背景に太平洋を望むあたり絶好のコース



高校は実力伯仲

全双葉の健斗に期待

今年は正に選挙の年である、昨年暮れ不信任提出部に総辞職を決行したあとをうけて、新内閣を組織した旭山民主党内閣は国会で約束した通り、休会中の国会を正月二十一日に再会し、続投答弁を行い、二十四日から三日間を政府演説に対する野党側の質問を行い、二十七日に政府側から「解散決議案」を上提して予定通り解散を断行する予定だ

早くも選挙氣分

お正月の話題さらう

というから、三月八日に総選挙が行われることになるが、或は政局推移の如何では休会明けくき即の解散説もあり、何れにせよ三月選挙は必至である。

この衆議選を皮切りに、知事、県議、市町村長、市町村会議員など三月末から四月にかけて地方選挙が引続き行われる。これらの選挙をめぐって月早々書くには、あの手この手の選挙運動と覚しきものがみられ、候補者の顔ぶれなど早くも噂にのぼっている。

衆議選の巻

現役の民主党福本吉、自由党関内正一、右社の松井政吉の三氏は何れも党公認としての再出馬は勿論ないところである。それに左社からは前回吉杯をとめた磐炭労袋屋長大河原一次氏と、共産党からは平事件の被告鈴木光雄氏が何れも公認で出馬することは確実と言われ、そのほか相馬からは現県議の田原徳民の公認出馬が確実と伝えられ、また早くから噂されていた元陸士鈴木恒人氏も非公認でも出馬を強行していると言われ一雄氏が非公認で再出馬する公算が強い、その他では立候補会の斎藤晃氏（右城）らの出馬も気配が濃く、三名の定員に対して七―八名の立候補はあるものとみられ県下第一の激戦地となるようである。

縣議選の巻

現役組の選挙課長を始め、四倉方部の相田万治郎、磐城の小野登一郎多方部から沢田源治、星友太郎中央から大平正次、大井川正己それに木田源之助の諸氏は再出馬確実と言われ、病気で再起不能の赤沼正吉郷氏の代りには内楽から坂本義次郎氏が出馬確実、

それに前回の補選で落選の憂目をみた内郷市の鈴木善次郎氏、それに川前から永山忠一氏と、相田から鹿文治氏の出馬が確定的で、保守陣営からは十二名が蝟のぼっている。革新陣営からは前回補選で落選の高橋郁男氏の他、相田から下山郁男氏が右

三木廣川氏ら來平

さよう民主黨演説會

民主党総務会長三木武吉、同副総裁広川弘禅氏ら同党首脳一行六名は愈々三日来平、平市公会堂と磐城市の二カ所で政権担当後初の大演説会を開らく、同演説会には三木武吉総裁、広川副総裁の応援演説を始め、本県政界に広川せん風を巻き起した元農林大臣広川弘禅、地元選出の鈴木松吉代議士、民主党政調会副会長中村梅吉、現農政務次官の吉田重延氏ら同じく大蔵大臣、農林大臣、運輸政務次官の吉田重延

天國で迎えた末年

平の養老園を訪れる

来る年も来る年も、誰にも煩わることなく世間から別離して、行く末短かい余生を養老園で送っている老人たちの中で、末年生れの人が三人もいるというので、平市下荒川の龍門寺内に在る「平養老園」を訪ね、三老人たちから変化とんだ生涯の苦闘談を聞かして貰った。「ここはこの世の天国ですよ」と現在の生活に満足し切って、人生の終りを得ている老人らは、はたの目もうらやむ程のなごやかな生活に明け暮れており、陽あたりのよい縁先で「幾つになってもお正月というのはうれしいものですね」とシワ面をほころばせながら色々語ってくれた。

女と唐がらし大キライ 72才までやもめで通す

その一人阿部玄男さんは明治四十年生れの明けて満七十二才というおじいさんであるが、働くことは問題一といわれている。

新潟県東かん原郡の豪農の末ツ子に生れ十七、八才頃から放浪性が身につき農業を嫌って家出材木搬出、木挽などをしながら川前、川内、豊浦、小名浜と各地を転々と廻り歩き、昭和十年の春平市研町に落着いた。そこで荷ら木挽さんを定職に生活を支えていたが、過ぐる三月十日の空襲で焼け出され、四時町に家を買って住みついたものの、手間賃稼度では到底食べて行けないので、二十七年八月に養老園の御世話になった。

「私は女と唐がらしは大嫌いです」と意気込んで語るこの七十二才のおじいさんは、生れてこのかた愛するものを持った事がなく、また友遊びも一向に知らないと大気えんをあげていた、木挽仕事で鍛えた身体は園内外の板張りや近所の農家手伝いなどには率先して出動し、「毎晩五勺程度の晩酌を飲んで寝ると疲れ知らずで、若い者と同じですよ」とシワと笑いが年には見えない若さである。

五、六年前にカトリックの祝礼を受け名もシメオンと洗礼を授けられているクリスチャンで、「今望遠鏡で世間になるとは有難いことです」と感謝するカトリック神父さんの説教も楽しみの一つです」と語っていた。

百姓きらって大工

◆…養老園では最古参の水谷伝次さんは今年八十四才、明治二十八年生れである。

山形県西村郡の農家に生れたが、農業をきらって大工となり四十五才のとき家を離れ、各地を廻っているうち宇都宮で先妻と死別、間もなく迎えた後妻と共に平市鎌倉に住みついたが息子達との折り合いが悪く、家を飛び出して穴居生活をしていたが昨年春養老園にひきとられたという。「二十九年の四月まで城山下の防空ごう生活をしていたが、息子と後妻との折合いまく行かず、随分苦労しましたしといい残すように、昨年暮ダンゴ死なぜどの大病を患ったが時に昭和にも来なかったと語るがらに語かして呉れた

旅館のお嬢さん

若い彼氏を追って平へ

◆…山形県上の山という人も知る温泉町に生れ、大きな宿屋の長女で育った斎藤ナオさんも同じ七十二才の年生、十九才の時に郷を逃えて結婚生活に入ったが、間もなく拘つて生れた女性から夫と別れて家出して三十才頃まで須賀川町に居住し某学園の女中として住み込んでいるうち知り合った市生れた新潟世の荒波にはまっすぐしない活廿八年ぶりに故郷の養老園の世話になっているという。一時は恋に浮名を流した程との人だけに客あるシン坂の間にも、人好きのする笑人のおも影がうかがわれ、弱々しそうなところがある。

「他人に世話になっているので気まっは言えないが、早く楽く寒くなく生活したいのが終一杯ですよ」と弱々しそうな身体つきで、昭きされ盆園の庭で語り出したこのおばあさんは、脳が思い上に冠が痛むと言って、同僚の八十位のおばあさんと八畳間のまん中にボンンと置かれてある火鉢にあたろうともせず、眼鏡あれは太陽に細手をあわせ、祈り続けているといむけて一時は楽しい生活を送っていたが、等る年波と共に姿万化

湯本の牛乳屋殺しの ヒロインは羊年

◆先づ、とうとう来腹鉄幕件としての幕を閉じてしまった湯本天王町の牛乳配達婦殺し事件のヒロイン国井こみさんが明治四十年生れの羊年である。

疑惑のもつれから、とうとう命まで断たれてしまった地下に葬る国井こみさんの霊が、果して今年中に浮かばれるかどうか？羊年に課せられた問題の一つであろう。

平事件被告

◆平事件の容疑者一組被告のうち、木村ヒサ子さん、志賀ヤエさん、杉村スエ子さんの三名が何れも二十四才昭和六年生れの羊年、

新春都々逸

竹本喜美大夫

初春

▼鏡にうつして今晩あたり
　眺にとかせる島田やら

▼門松のあるうちやる気に
　幸福しましょう
　人気家業の繁昌

▼幸福と甲斐が二人を結び
　世帯も新たのトソの味

▼初心の宝船より貧実の寒
　のせて楽しい共稼ぎ

▼つもりつもりし心のなぞも
　とけて嬉しい春の雪

あのやさしそうな羊にも自己の意志を貫ぬこうとする強固な信念があり、結婚のはばりが注目される

殺された キンツバ屋の女

◆平市民を恐怖のどん底にたたき込んだ「キンツバ屋殺し事件」の被害者佐藤キヨさんが大正八年生れの羊年、細やかな愛情が過ぎて、その愛情故と盗に金までとられてしまったキヨさんも可れんな羊のはかなさか、「運命だった」とばかりは言い切れない何もで城と疑れ知らずで、若い者と同じですよ」とシワと笑いが年には見えない若さである。

五、六年前にカトリックの祝礼を受け名もシメオンと洗礼を授けられているクリスチャンで、「今望遠鏡で世間になるとは有難いことです」と感謝するカトリック神父さんの説教も楽しみの一つです」と語っていた。

百姓きらって大工

◆…養老園では最古参の水谷伝次さんは今年八十四才、明治二十八年生れである。

山形県西村郡の農家に生れたが、農業をきらって大工となり四十五才のとき家を離れ、各地を廻っているうち宇都宮で先妻と死別、間もなく迎えた後妻と共に平市鎌倉に住みついたが息子達との折り合いが悪く、家を飛び出して穴居生活をしていたが昨年春養老園にひきとられたという。「二十九年の四月まで城山下の防空ごう生活をしていたが、息子と後妻との折合いまく行かず、随分苦労しましたしといい残すように、昨年暮ダンゴ死なぜどの大病を患ったが時に昭和にも来なかったと語るがらに語かして呉れた

旅館のお嬢さん

若い彼氏を追って平へ

◆…山形県上の山という人も知る温泉町に生れ、大きな宿屋の長女で育った斎藤ナオさんも同じ七十二才の年生、十九才の時に郷を逃えて結婚生活に入ったが、間もなく拘つて生れた女性から夫と別れて家出して三十才頃まで須賀川町に居住し某学園の女中として住み込んでいるうち知り合った市生

羊は古くから温和な動物と言われキリストの言から愛のシンボルとして盛徴され、疑惑のこまやかな性格は、ひつじ年生れの人たちを抱つつみる。

湯本の牛乳屋殺しの ヒロインは羊年

◆先づ、とうとう来腹鉄幕件としての幕を閉じてしまった湯本天王町の牛乳配達婦殺し事件のヒロイン国井こみさんが明治四十年生れの羊年である。

疑惑のもつれから、とうとう命まで断たれてしまった地下に葬る国井こみさんの霊が、果して今年中に浮かばれるかどうか？羊年に課せられた問題の一つであろう。

平事件被告

◆平事件の容疑者一組被告のうち、木村ヒサ子さん、志賀ヤエさん、杉村スエ子さんの三名が何れも二十四才昭和六年生れの羊年、

新春都々逸

竹本喜美大夫

初春

▼鏡にうつして今晩あたり
　眺にとかせる島田やら

▼門松のあるうちやる気に
　幸福しましょう
　人気家業の繁昌

▼幸福と甲斐が二人を結び
　世帯も新たのトソの味

▼初心の宝船より貧実の寒
　のせて楽しい共稼ぎ

▼つもりつもりし心のなぞも
　とけて嬉しい春の雪

あのやさしそうな羊にも自己の意志を貫ぬこうとする強固な信念があり、結婚のはばりが注目される

殺された キンツバ屋の女

◆平市民を恐怖のどん底にたたき込んだ「キンツバ屋殺し事件」の被害者佐藤キヨさんが大正八年生れの羊